

【成果報告書 1 : 海洋教育のデザイン】

1. 学校名 宮城県気仙沼市立気仙沼小学校

2. 活動テーマ名 「海との共生について考えよう」

3. 実践の概要・ねらい

海環境や資源、海を取り巻く人や社会との深いつながりについての関心を高め、海と共生しようとする市民としての考え方や行動力を身に付けた児童を育成する。

4. 実践計画

①テーマ・概要・活動計画，教科等との関連

<第3学年>

テーマ：(1) シャークナゲットを追って

概要： サメを使った水産加工品（シャークナゲット）に目を付け、商品開発に至った経緯をインタビューを通して知り、地域の産業と海の結び付きについて調べる。

計画：○水産加工工場（中華高橋水産）の見学とインタビュー

○サメを使った他の商品調べ

○地域の海を活かした特色ある産業調べ

関連：第3学年社会科「工場の仕事」

テーマ：(2) 命を育む大川

概要： 鮭の人口受精と人口孵化、稚魚の飼育と放流等の体験を通して鮭の生態を知るとともに、命を育む川や海を環境を保全しようとする態度を養う。

計画：○鮭の生態調べ

○人口受精の瞬間の見学

○放流までの稚魚の飼育と観察

関連：第5学年理科「魚のたんじょう」

<第4学年>

テーマ：宮城県の土地の様子を知ろう

概要： 県内の海岸線の様子を調べ、リアス海岸を形成する地域で水産業が盛んな理由を探る。

計画：○気仙沼大島への校外学習（砂浜や養殖筏の見学を含む）

○気仙沼市唐桑町への校外学習（リアス海岸を実際に歩いて観察する）

関連：第4学年総合的な学習の時間「防災マップをつくろう」

<第5学年>

テーマ：見つめよう気仙沼の水産業

概要：地域の基幹産業である水産業を見つめ、海を活かした持続的な産業の在り方を考える。また、震災からの復興状況と市内で水産業に従事する方々の苦勞を調べ、自分たちにもできることを考える。

計画：○震災後も商品開発や販売を続ける企業（斉吉商店）への訪問
○魚市場見学と復興状況の調査
○魚料理教室の実施

関連：第5学年社会科「水産業のさかんな地域」

<第6学年>

テーマ：(1) オリジナル気仙沼弁当をつくろう

概要：未来に残したい気仙沼の食材を選び、その食材を使ったオリジナル気仙沼弁当を作って味わうことを通して気仙沼の魅力を再認識する。

計画：○地域食材と郷土料理についての調査
○未来に残したい気仙沼の食材の選出
○地域の食材を活かした調理実習

関連：第6学年家庭科「一食分の献立を考えよう」

テーマ：(2) 気仙沼復興プロジェクト～私たちのまち未来の気仙沼～

概要：震災復興スローガン「海と生きる」の下、地域の方々がどのように復興を目指してきたかを調べ、自分たちが思い描く未来の気仙沼市の姿を考えて発信する。

計画：○復興状況の調査と気仙沼市の課題の把握
○仮設商店街の訪問と働く方への聞き取り調査
○未来設計図の作成と市役所職員との意見交換

関連：第6学年国語科「街の幸福論」

②実践の評価について

各学年の学習の狙いに沿って「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つの観点で評価基準を設け、学習活動を通して身に付けさせたい力が育成されたかどうかを評価する。

5. 今年度の実践

①計画からの追加・変更点

<第5学年>

- ・ 齊吉商店でサンマと出汁を使ったワークショップを実施

<第6学年>

- ・ 理科「水溶液のはたらき」でデジタルpH測定器を用いた海水の調査を実施

<職員の研修関係>

- ・ 東京大学海洋アライアンス主催「対話と探究がつむぎ出す海と人との関わり～ディープ・アクティブラーニングの地平～」への職員の参加

②実践の成果

<体験的な学びについて>

- ・ 船での移動や海岸の散策等の活動を通して、児童や保護者が距離感を感じていた「海についての見方や考え方」が変容してきている。
- ・ 学習のねらいに応じて校外学習を計画することができ、児童の思いや考えを単元の学習に十分に活かすことができた。

<探究的な学びについて>

- ・ 実験や観察を通して分かったことを基に海で起きている実際の自然現象を見つめ直したり、自然事象を基に課題解決したりすることができてきた。
- ・ 学習内容を身近な海と関連付けることで対話的な学びが深まり、児童が自分の生活経験を基に意見を述べることが多くなった。
- ・ 課題解決のために他教科・他領域での学びを活用する児童の姿が見られるようになった。海洋教育の授業は学年を超えた学習内容の継ぎ目となることが多く、児童が友達や教師との対話を通して既習事項を整理し、学習を振り返ることが多くなった。

<職員の指導力向上について>

- ・ 先進校の視察や全校区海洋サミット、全国海洋フォーラム等に参加して海洋教育の事例を得て、本校の指導計画を見直し、効果的に改善を図ることができた。
- ・ 海洋教育クロスカリキュラムの作成を通して学年の指導内容の系統性を整理して捉えることができた。

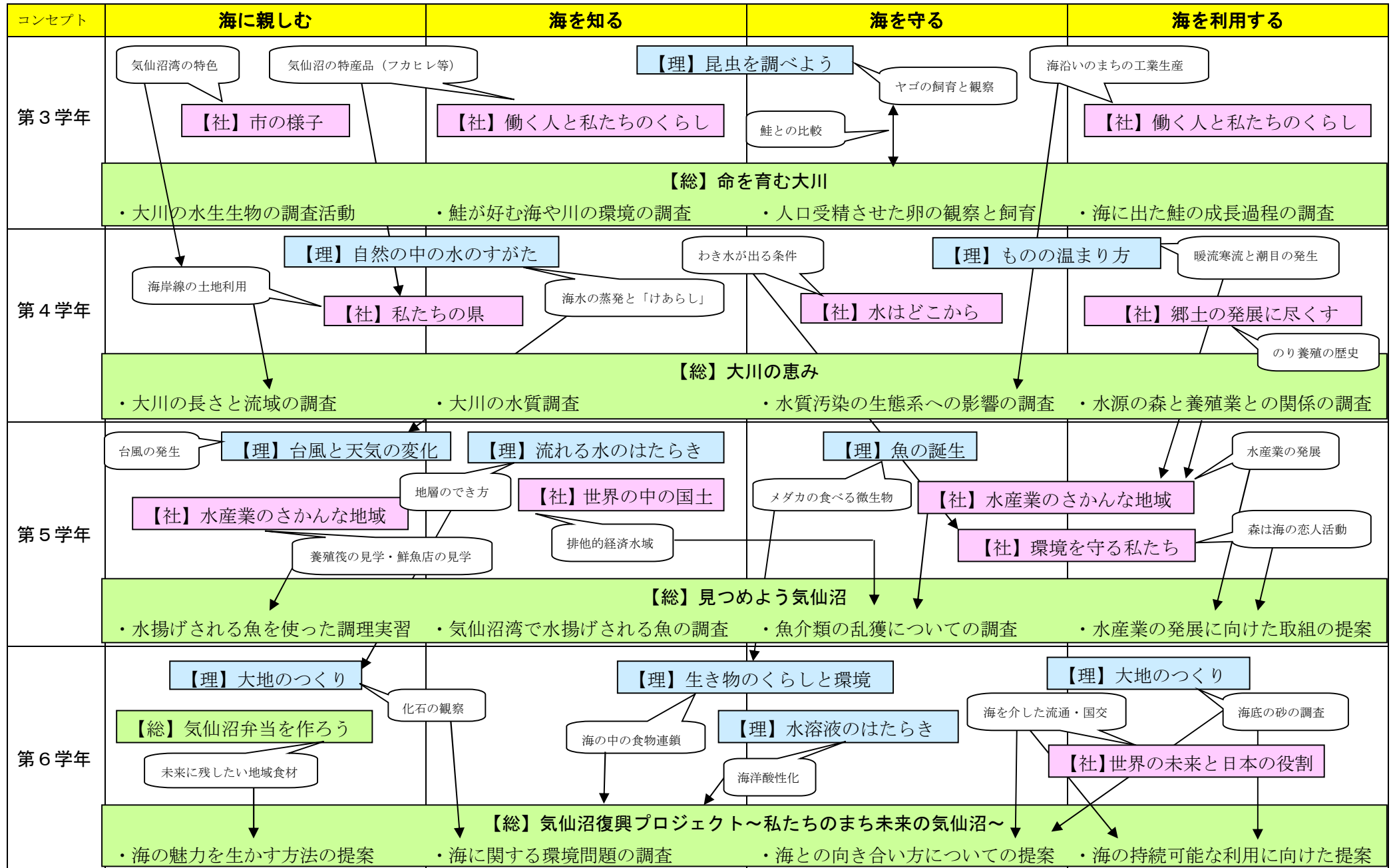
③次年度への課題

海洋教育の実践を通して目指す児童の姿を、各学年毎には設けていなかった。クロスカリキュラムを改善し、学年毎に目指すべき児童の姿を明らかにして示すようにしたい。

6. 主な連携機関及び内容

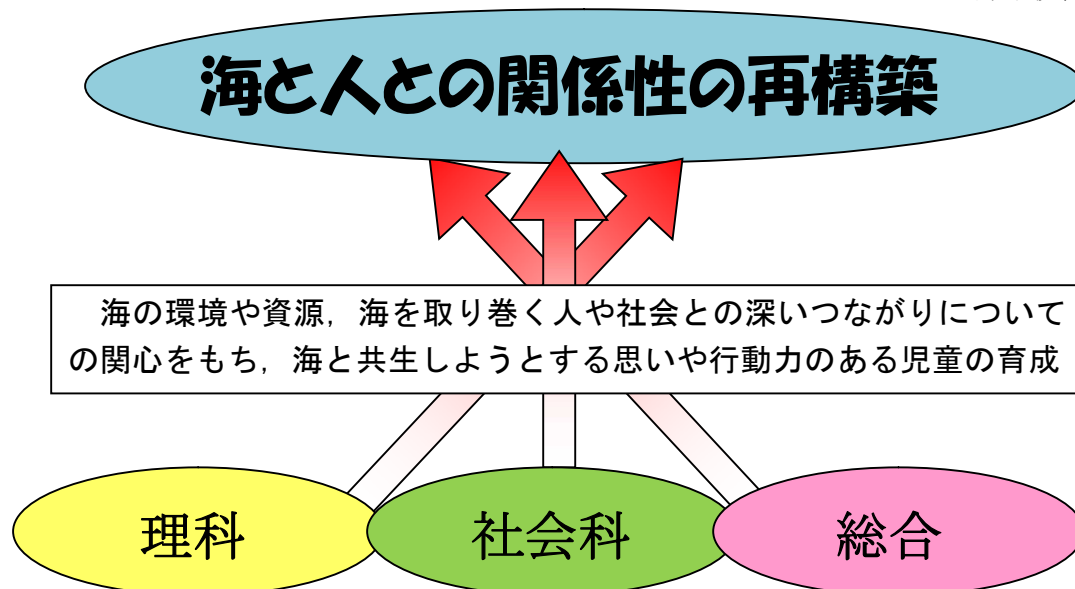
<東京大学海洋アライアンス>

単元開発や授業づくりに付いての指導助言と全国各地の実践事例の紹介



海洋教育クロスカリキュラム

海洋教育部



海洋教育のコンセプト

(海洋政策研究財団「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」より)

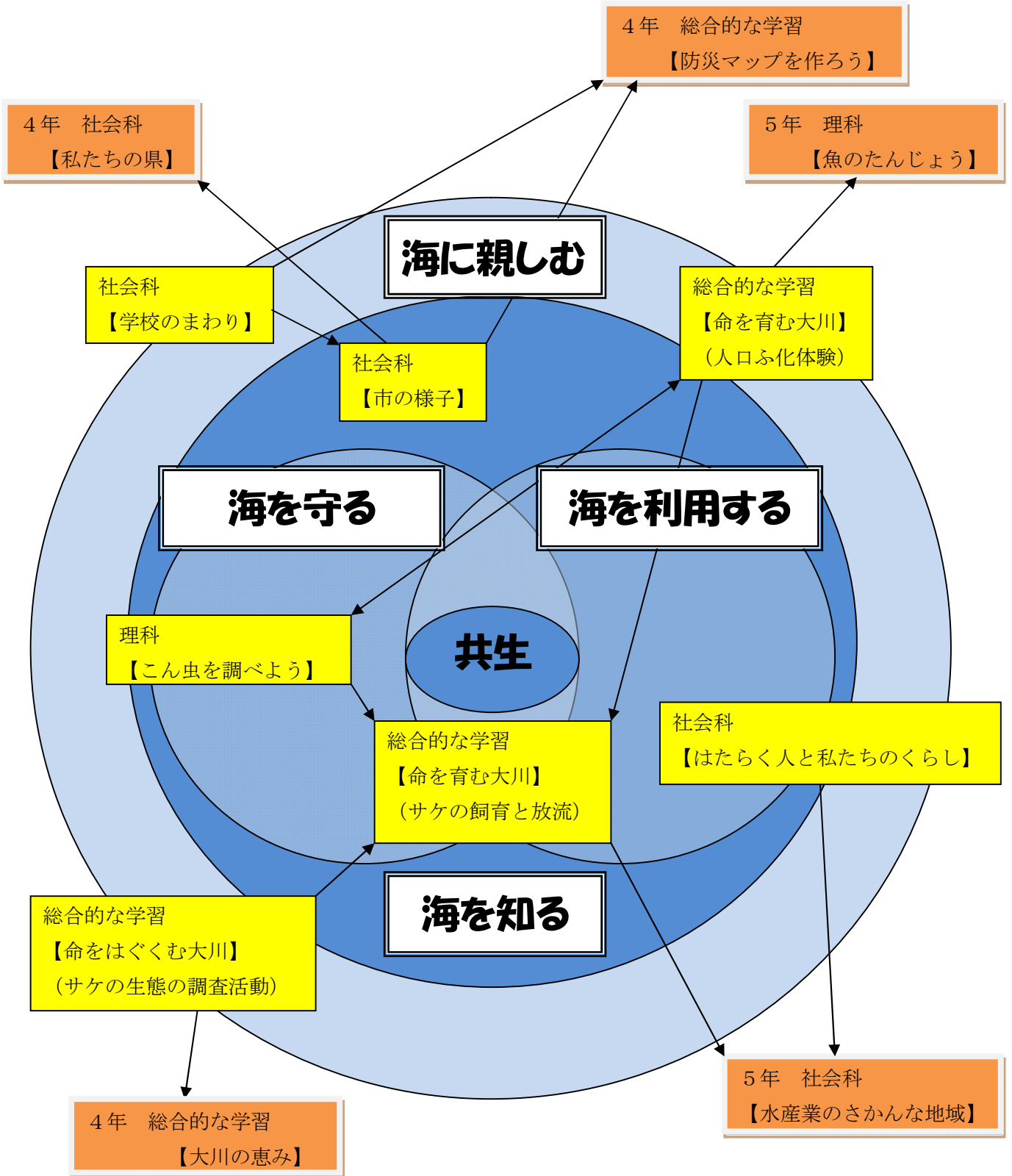


【東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターHPより抜粋】

[\(http://rcme.oa.u-tokyo.ac.jp/\)](http://rcme.oa.u-tokyo.ac.jp/)

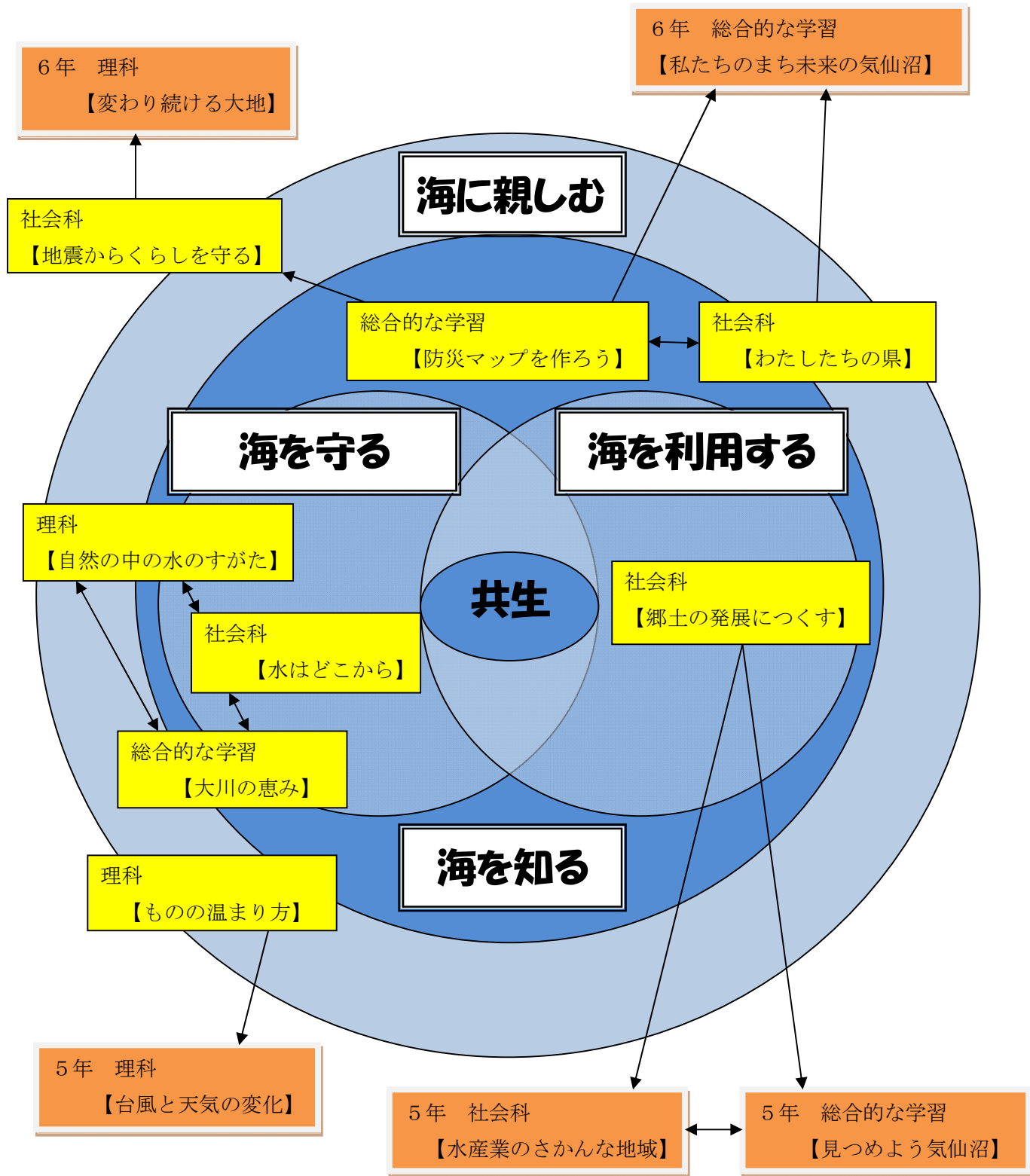
＜第3学年＞

- ・サケの飼育と放流体験をとおして海や川の生き物の命のつながりを実感する。
- ・海を生かした地域の産業について興味をもって調べる。



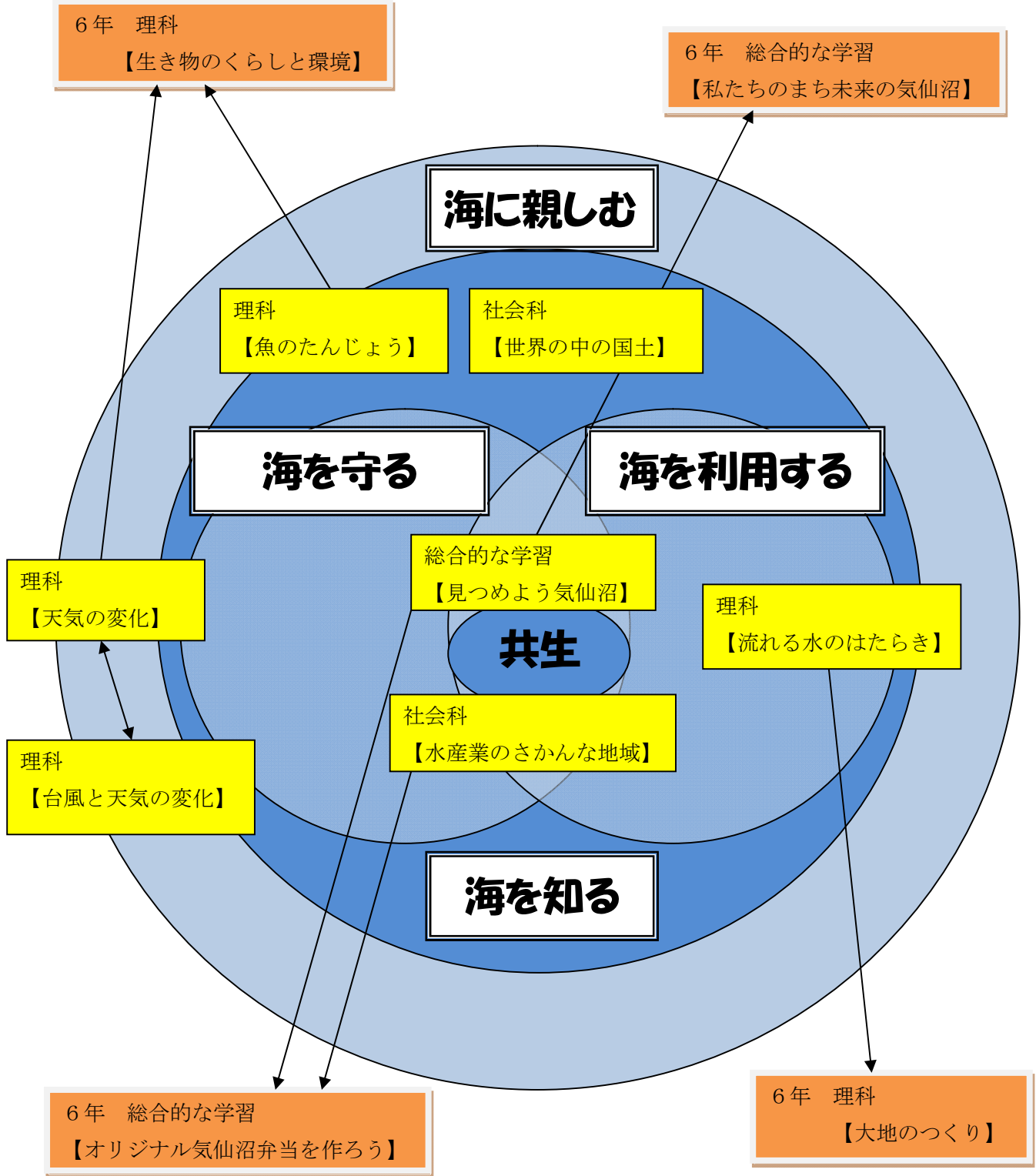
＜第4学年＞

- ・けあらし等の自然事象を見つめ直し，自然界の水の循環の要となる海の役割を知る。
- ・水産業が盛んな気仙沼市のよさについて考え，地域に対する誇りや愛着を高める。



<第5学年>

- ・地域の水産業について調べ，気仙沼の海の魅力を多面的・多角的に捉え直す。
- ・自然界の天気の変化に海が存在が大きく関わっていることを知る。



<第6学年>

- ・海の問題の影響を知り、持続可能な海洋利用・海洋開発について考える。
- ・海と生きる市民としての在り方を考え、学習してきたことを基に意見文を書く。

